資料　１３

河川事業に関する報告事項
（参考資料）

平成３０年１月１２日

国土交通省　東北地方整備局

1. 岩木川直轄河川改修事業【事業概要】

- 岩木川は、過去に昭和33年8月洪水等により甚大な浸水被害が発生しており、近年においては平成25年9月洪水により被害が発生している。
- 平成18年度に策定した河川整備計画では、『戦後最大洪水である昭和33年8月洪水（上岩木橋地点）、昭和52年8月洪水（五所川原地点）と同規模の洪水が発生しても、床上浸水等の重大な家屋浸水被害を防止するとともに、水田等農地についても浸水被害の軽減に努める』ことを整備の目標としている。
- 当面の整備（今後概ね4年間）として、昭和33年9月洪水に対応した下流～中流部における堤防整備、河道掘削を実施する。また、平成25年9月洪水で計画高水位を超過した区間においては、同規模の洪水が発生しても計画高水位を超えないよう、堤防整備、河道掘削を実施する。

位置図



●事業箇所：弘前市、五所川原市、黒石市、青森市、つがる市
平川市、大鰐町、藤崎町、板柳町、鶴田町、
中泊町、西目屋村、田舎館村
●事業期間：平成19年度～平成48年度
●事　業　費：約440億円

過去の出水状況

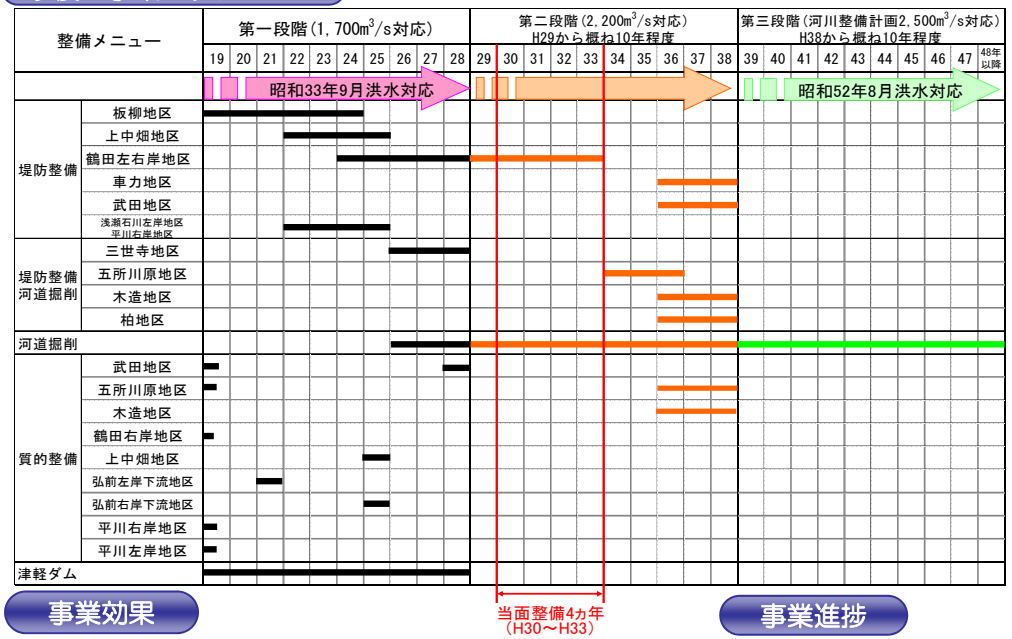


土淵川からの増水による
家屋浸水状況（弘前市山道町地区）
昭和52年8月洪水

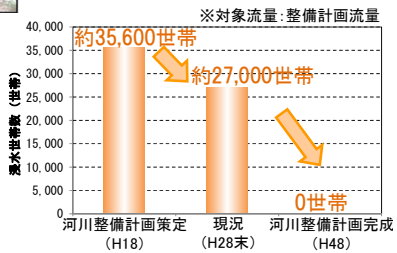
氾濫防止のための水防活動（中泊町長泥地区）
昭和33年8月洪水

緊急的な越水対策（鶴田町役場付近）
平成25年9月洪水

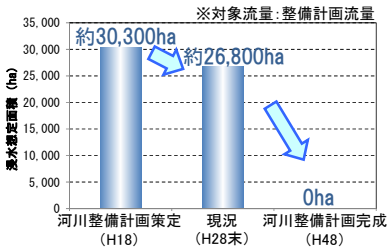
今後の事業スケジュール



事業効果



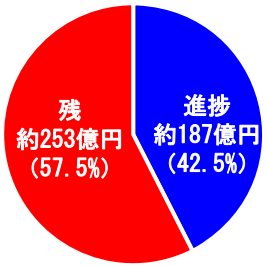
整備計画前後の浸水想定世帯数



整備計画前後の浸水想定面積

【計算条件】
整備計画策定時河道（H18）、現況（H28末）、整備計画完了時河道（H48）に整備計画流量を流した場合の効果を示している。

事業進捗



約440億円（全体）
※進捗率（%）：事業費ベース
（H28年度末時点）

2. 最上川直轄河川改修事業【事業概要】

- 最上川は、過去には昭和42年8月洪水、昭和44年8月洪水により甚大な浸水被害が発生しており、近年においては平成9年6月、平成14年7月、平成16年7月、平成25年7月、平成26年7月洪水により被害が発生している。
- 平成14年度に策定した河川整備計画では、『戦後最大規模である昭和42年8月洪水（村山・置賜地域）、昭和44年8月洪水（最上・庄内地域）と同規模の洪水からの住家への浸水被害の防止するとともに、農地については平成9年6月洪水と同規模の洪水による冠水を極力軽減させる』ことを整備の目標としている。
- 当面の整備（今後概ね3年間）として、平成9年6月洪水規模の洪水から家屋の浸水被害解消を図るべく、中流部の堤防未整備区間の堤防量的整備をはじめ、沿川に資産が集中している上流部の支川須川の河道掘削、堤防の質的整備等を実施する。

- 事業箇所：山形市、米沢市、酒田市、新庄市等
- 事業期間：平成14年度～平成43年度
- 事 業 費：約1,554億円

位置図



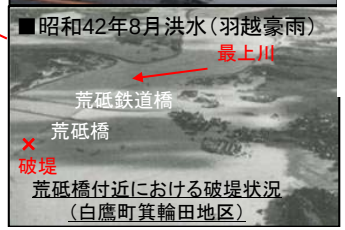
過去の出水状況



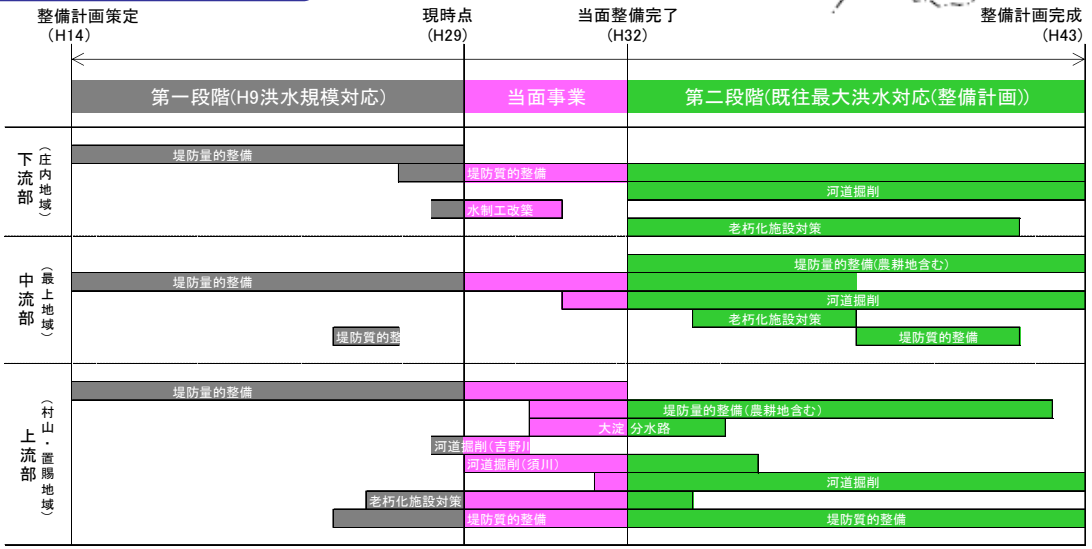




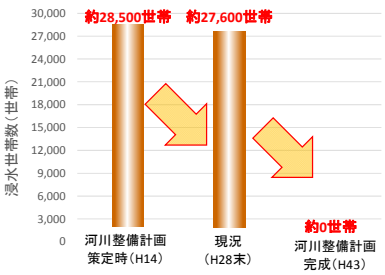




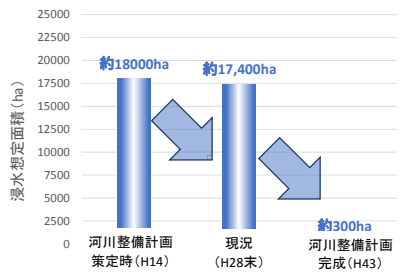
今後の事業スケジュール



事業効果



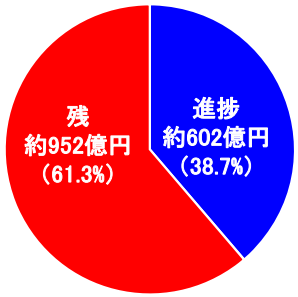
整備計画前後の浸水想定世帯数



整備計画前後の浸水想定面積

【計算条件】
整備計画策定時河道（H14）、現況（H28末）、整備計画完了時河道（H43）に整備計画流量を流した場合の効果を示している。

事業進捗



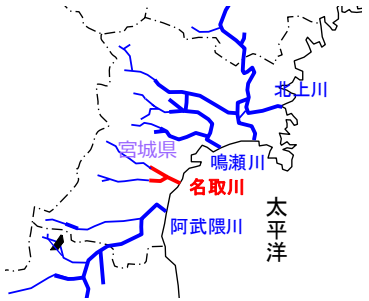
約1554億円（全体）
※進捗率（%）：事業費ベース
（H28年度末時点）

3. 名取川総合水系環境整備事業 【事業概要】

- 名取川の良好な河川環境を保全・復元並びに創出することを目的に、河川利用の推進及び水環境の改善等を図るものである。
- 閖上地区では名取市の震災復興計画により市民生活の早期再建はもとより、賑わいを取り戻すために新たな観光・交流拠点の形成に向け取組が進められていることから、まちづくりと一体となった河川空間を整備し、市民とともに水辺空間の利活用を図り、賑わいの創出を図るものである。

●事業箇所　：　宮城県仙台市～宮城県名取市
●事業期間　：　平成10年度～平成35年度
●全体事業費　：　約24.5億円

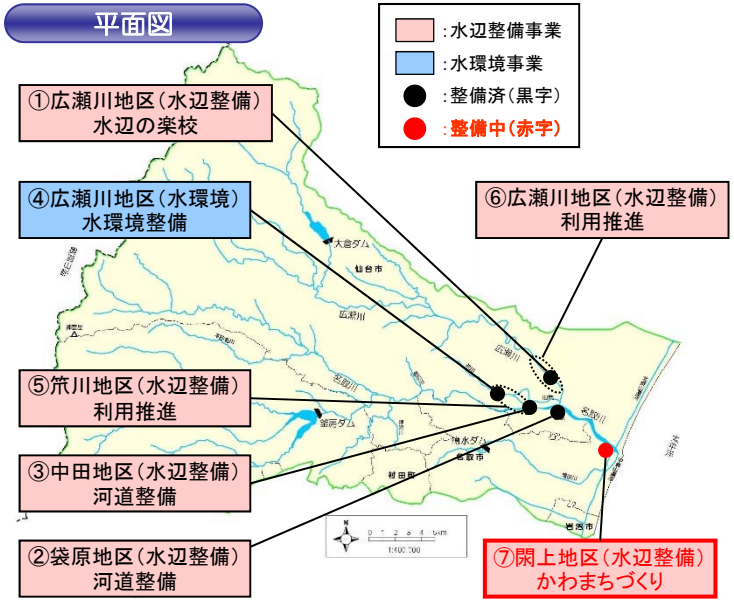
位置図



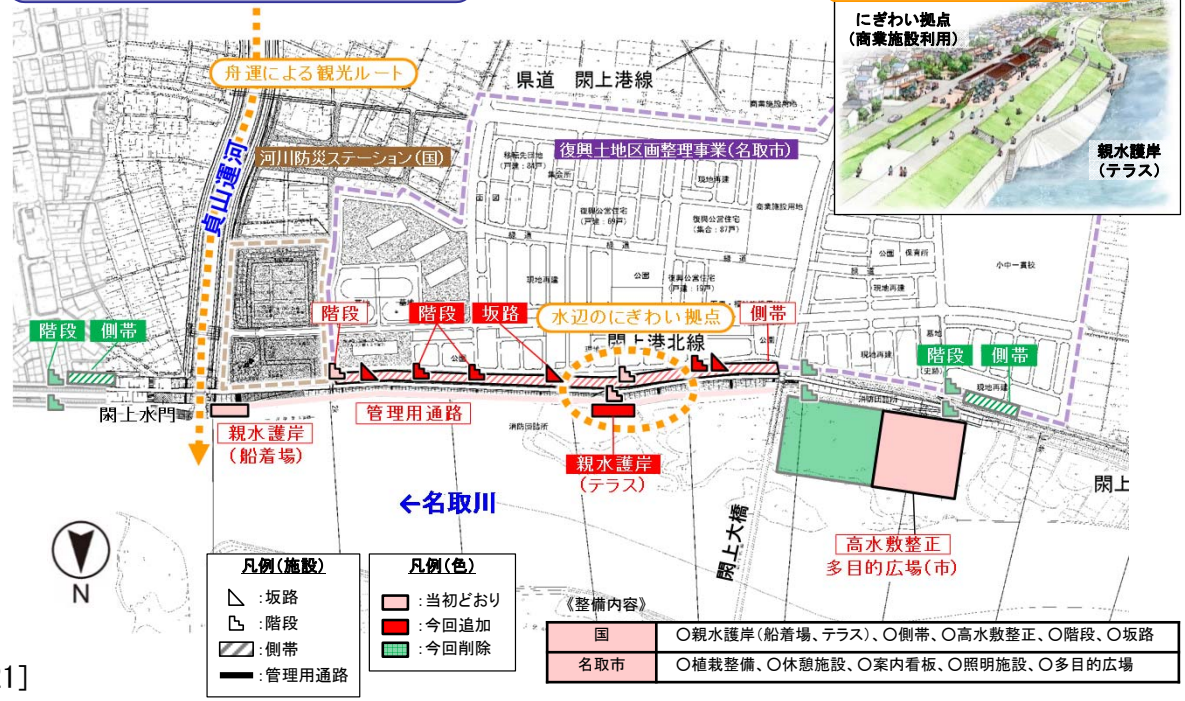
今後の事業スケジュール

事業内容	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
【水辺整備】 閖上地区かわまちづくり					→モニタリング				

平面図



事業内容「閖上地区かわまちづくり」



水辺のにぎわい拠点(整備イメージ)

《整備内容》

国	○親水護岸(船着場、テラス)、○側帯、○高水敷整正、○階段、○坂路
名取市	○植栽整備、○休憩施設、○案内看板、○照明施設、○多目的広場

整備済事業

【水辺整備・水環境】
・水辺の楽校、利用推進、水環境など他6地区 [H10～H21]


広瀬川地区(水辺整備)


笊川地区(水辺整備)


階段


親水岸(船着場)

事業進捗

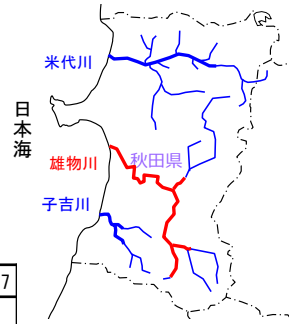
(1)全体事業費　：　約 24.5 億円
(2)整備済み事業費　：　約 23.6 億円
(3)進捗率　：　約 96.3 %
(4)残事業費　：　約 0.9 億円

4. 雄物川総合水系環境整備事業 【事業概要】

- 雄物川の良好な河川環境を保全・復元並びに創出することを目的に、河川の自然環境の再生、河川利用の推進等を図るものである。
- 雄物川上流において絶滅の危険性が高いトミヨ属や在来タナゴ類の魚類、ミクリ等の湿性植物等、多種多様な生物の生息・生育・繁殖場となるワンド・たまりが、近年、河道の二極化による樹林化や底泥堆積等により劣化、縮小が進行していることから、本事業においてワンド・たまりを保全・復元し、生物多様性の保全を図るものである。

●事業箇所　：　秋田県湯沢市～秋田県秋田市
●事業期間　：　平成8年度～平成37年度
●全体事業費　：　約33.0億円

位置図



今後の事業スケジュール

事業内容	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
【自然再生】 雄物川上流自然再生								→モニタリング				

平面図

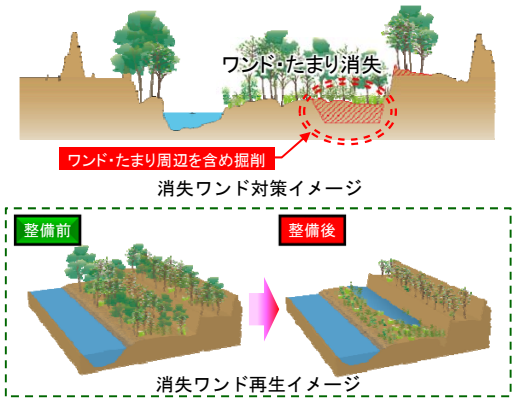


事業進捗

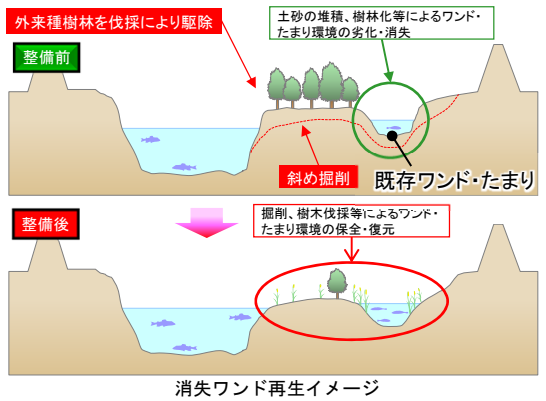
(1)全体事業費　：　約 33.0 億円
(2)整備済み事業費　：　約 31.0 億円
(3)進捗率　：　約 93.7 %
(4)残事業費　：　約 2.0 億円

事業内容「雄物川上流自然再生」

■玉川消失ワンドの対策



■雄物川一連区間の対策



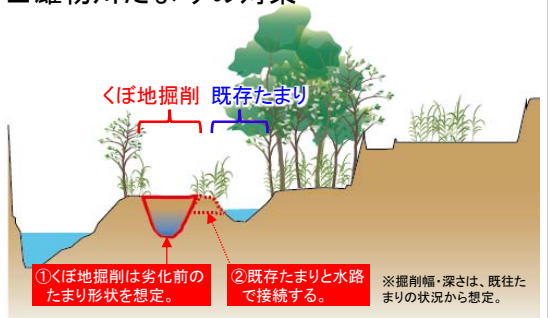
整備済事業

【水辺整備】
・水辺の楽校、かわまちづくりなど他6地区
[H8～H23]


山田地区(水辺の楽校)


今宿地区(河川公園)

■雄物川たまりの対策



5. 雄物川上流消流雪用水導入事業（湯沢地区）【事業概要】

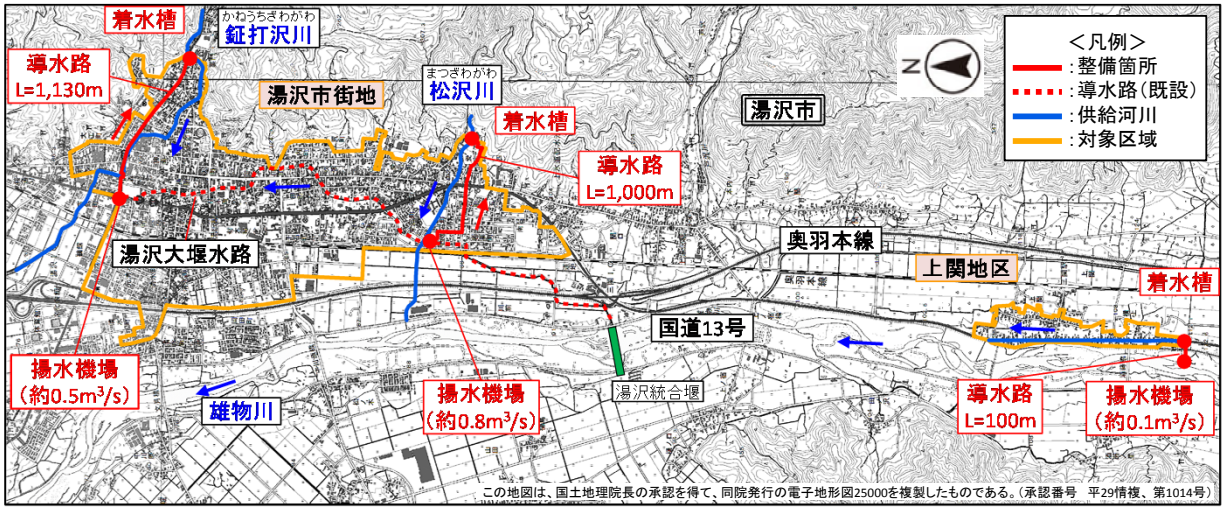
- 特別豪雪地帯の湯沢地区は、冬期の積雪によって、家屋・宅地の除排雪作業、道路交通の阻害、河道の閉塞などにより、住民の生活に大きな支障をきたしていた。
- このため、小河川の雪による河道閉塞を防止し、治水安全度の向上を図るとともに冬期に安全で快適な生活を営むことができるよう、一級河川雄物川から市街地を流れる小河川に安定して豊富な水量を供給する導水路等の整備を行ったものである。

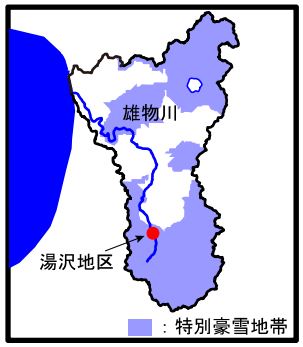
●事業箇所　：　秋田県湯沢市
●事業期間　：　平成19年度～平成24年度
●全体事業費　：　約 20.1億円（新規採択時約25.0億円）

位置図



事業内容【完了】






松沢川揚水機場


松沢川揚水機場
（機械設備）


松沢川着水槽

事業効果



小河川では水量が少ないため雪堤で河道閉塞が発生していた。



豊富な水量が確保されたため、小河川の河道閉塞が解消され、排雪能力が向上した。



歩道部に雪堤が発生し、歩行空間が確保されていなかった。



歩道部の雪堤が解消され、歩行空間が確保された。

・小河川の河道閉塞が解消され排雪能力も向上した。
・住民からは「大変助かっている。以前は川に雪が積もり渡れるほどだった。」「思ったより水が多く助かっている。歩道も確保でき、車の駐車もしやすくなった。」等の声のほか、除雪労力の軽減などの効果も聞かれている。
・地域住民によって組織される「湯沢市流雪溝利用組合連合会」によって住民自ら管理が行われている。